

WS-1 「グループ動機づけ面接を体験してみよう

「言いつばなし、聞きばなしではない自助グループを目指して」

講師：岡嶋 美代先生 時間：9：30-12：30 定員：100名

動機づけ面接では、傾聴を基本として相手を尊重する側面と、健康的な生活や価値ある人生に向けて一方向へ話を整理する側面を併せもつコミュニケーションの技術を教えています。昨年は家族向けに動機づけ面接のエッセンスを教えるワークショップを行って「間違い指摘反射の抑制」の大事さをお伝えしました。これまでOCDの会のミーティングでは「言いつばなし、聞きばなし」の伝統的な依存症自助グループのやり方で15年間やってきました。「言いつばなし、聞きばなし」は傾聴を基本として相手を尊重する側面を持ちます。ここにグループ動機づけ面接を導入するとどうなるかということを経験していただこうと思います。相手と意見を戦わせずに、不愉快な気分をさせずにグループでの話し合いをまとめていくには、ファシリテーターの役割が重要です。グループの人数に合わせてファシリテータを数名配置して行きます。ファシリテータは多少動機づけ面接を知っている方がいいですが、知らなくてもその場で指導します。言いつばなし、聞きばなしと違って、本日のテーマを一つ決めてから話し合いを始めます。知らない者同士で10人ずつのグループになって練習を行う予定です。ファシリテータを体験したい方は事前にお知らせください。少ない場合はこちらから指名して当日グループの中で役割をとっていただくために事前に資料をお渡しします。ファシリテータの方だけに資料があります。他の参加者の皆さんは話したい、聞きたい話題をテーマに自由に話してもらいますので、OCDの会に初参加の方々が聞きたい話題をテーマにすることもできて、従来のスタイルよりも満足感が高まる可能性もあります。

講師紹介

岡嶋 美代

BTCセンター東京/心理療法士・専門行動療法士

2004年熊本大学大学院医学研究科修士課程（医科学）卒業。2005年国立病院機構菊池病院臨床研究部心理療法士。2008年より医）和楽会なごやメンタルクリニック、また2014年より千代田心療クリニックにも勤務。

WS-2 「強迫苦手を克服する方法は？あなたの不安を克服しましょう」

講師：原井 宏明先生 時間：13：30-16：30 定員：100名

強迫一筋35年。「強迫は治る」が常識になってきている私にとって、集中治療である患者さんが発してくれた質問がとても新鮮でした。「どうして強迫の治療者は増えないのでしょうか？」東京で開業準備をしています。あちこちのクリニックを見学させてもらっています。「うつ病を治せる」「パニックを3種の薬で治す」「私はトラウマ治療のエキスパート」と誇らしそうにおっしゃる医師も、強迫に関しては「原井クリニックに紹介します」。私よりも研究業績が豊富で臨床経験も長いさまざまな医師が異口同音に強迫苦手を自認するのは何か理由があります。

・診察で強迫の患者さんが話す内容には特徴があります。苦手なものは何か、避けているものは何かを説明するのを避けて、何をして困っているのかという話をしたがりません。強迫儀式の話をしたがるのです。「儀式自慢」ののっかってしまうと診察時間のほとんどが無駄になります。巻き込まれない方法を説明しましょう。

・エクスポージャーが上手くいきだすと、患者さんは自ら次々経験しようとします。やりすぎに治療者は不安を覚えます。この不安には正しい部分と間違った部分があります。

行動モーメンタムの利用の仕方と強迫を機能で把握することを覚えましょう

講師紹介

原井 宏明

原井クリニック院長・榊原井コンサルティング&トレーニング代表取締役・BTCセンター東京・専門行動療法士 動機づけ面接トレーナー

1984年岐阜大学医学部卒業、ミシガン大学文学部に留学(文化人類学専攻)1985年神戸大学精神科で研修。1986年国立肥前療養所に就職、山上敏子先生から行動療法を学ぶ。1998年国立菊池病院に転勤。精神科医長。うつ病や不安障害、薬物依存の専門外来と治療などを担当。2000、2001年ハワイ大学精神科アルコール薬物部門に留学。2003年臨床研究部長。2007年診療部長。2008年医療法人和楽会なごやメンタルクリニック院長。2013年AssociateClinicalProfessor, Department of Psychiatry, University of Hawaii ハワイ大学精神科臨床准教授。2018年なごやメンタルクリニックを退職。2019年1月東京中央区京橋で原井クリニックを開業。